

地理歴史科授業案
(地理総合)

日時：2023年12月14日(木) 4校時
教室：○○教室(最大64名)

生徒：1年1組(40名)
授業者：○○ ○○

- 1 単元名「理想の生活圏を考えよう」
 - 2 単元の目標
 - 3 単元の評価基準
 - 4 単元の指導と評価の計画(全15時間)
 - 5 本時(第1次2時間目)
- 別紙「指導と評価の計画」参照

(1) 本時の目標

- ・ 探究の手法について理解し、適切な問い合わせ(課題)を立てる(設定する)ことができる。【知識・技能】
- ・ 地域社会の持続性に着目し、深刻性や重要性といった根拠を基にした問い合わせとなるよう多面的、多角的に思考し、表現することができる。【思考・判断・表現】

(2) 学習の展開



【前時】

学習項目	学習者の活動	学習形態	授業者から学習者への働きかけや支援	評価規準(評価材)
(参考) 前時の学習の展開	1 地理総合の振り返り (1) 情報を収集し、整理する方法は多種多様であり、情報の種類や表現方法によって、適性があること (2) 自然環境と人間の生活文化は相互に関係し合い、影響し合って成り立っていること (3) 世界の人々の生活文化は多様性をもち、その多様性は尊重すべきであること (4) グローバルな課題に対して国境を越えた解決が求められていること 2 問いを生み出す(疑問に思う)ことの反復練習 3 「生活圏のちょっと気になるところ」について意見交換 4 単元全体に関わる問い合わせを把握 【単元全体に関わる問い合わせ】 持続可能な地域の姿とはどのようなものだろうか。また、その実現のために私たちはどのように関わることができるのだろうか。 5 単元に関する興味関心レベルを見取るアンケートに回答	一斉	○肌感覚でOK ※質よりも量を重視 ○「Figma/Figjam」を用いて、考えを共有する	【技】地域の情報を効果的に収集したり、収集した情報をもとに資料を作成したりしている。 【態】よりよい社会の実現を視野に、地域の課題を主体的に追究、解決しようとしている。 (Googleform)
詳しくは、下記参照		個人 グループ	○ アンケートは授業改善を目的とするものであり、評価対象外であることを説明する。	

【本時】

学習項目	学習者の活動	学習形態	授業者から学習者への働きかけや支援	評価規準(評価材)
導入 本時の問い合わせの確認 (学習の見通し)	(問い合わせ) 私たちの地域はどのように変化し、どのような課題がみられるのだろうか 地域調査の見通しを持つ <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習者自身が課題を設定し、調査方法を計画すること ・ 生活圏の課題の提示にとどまらず、解消・改善を視野に地域社会の持続性に着目すること 	一斉	○この条件のほかに、調査結果を Google slide にまとめてること、GIS、デジタル地図、統計などを活用することを条件として設定する。	

展開 ①	<p>課題の検討</p> <p>課題設定に向けて、生活圏の理想と現状のずれや隔たりを考察する。</p> <p>SQ1 あなたが「あこがれる」生活圏の姿、「可能性がある」と考える生活圏の姿は、どのようなものなのか【理想】</p> <p>SQ2 あなたがみる、生活圏の現状はどうなっているのか【現状】</p> <p>SQ3 あなたが捉えている、生活圏の「理想と現状」のずれや隔たりはどのようなものか</p>	<p>個人</p> <p>個人</p> <p>個人</p> <p>個人</p>	<p>OSQ1～3を順に提示</p> <p>○見出すことが難しい生徒には、視点の例を提示することで支援する。 (提示する視点の例) 人口、災害対策、経済振興、観光資源、文化継承、環境保全、異文化理解・共生など</p> <p>(見出すことを期待したい地理的課題) 人口の高齢化、災害とその対策、地域の経済振興、観光資源の活用、地域文化の継承、環境の保全、国際化と異文化への理解や共生など</p> <p>なぜ～となってしまっているのだろうか。=背景・原因 どうすれば、～が解決できるのだろうか。=方法・提案 ○この後課題は、段階的に設定されていくものであることを説明する。</p> <p>○課題を設定した学習者へ「搖さぶり」をかける。 ※SQ4～9は、生徒の状況に応じて、問いかける。</p> <p>○選択した課題の深刻性の根柢となる情報を収集し、最終的には報告書等で示すことを条件として提示する。</p> <p>○調査趣旨の明確化をはかる。</p> <p>○「調査構想シート(仮称)」は、Figma 内の各ワークスペースを基本とする。</p>	<p>【態】前時の活動を基に、生活圏の課題を見出そうとしている。</p> <p>【思】地域社会の持続性に着目し、根柢のある深刻性と価値が伴った、適切な問い合わせ表現できている。</p> <p>【知】意見交換や他の学習者の発表を、自分の調査に生かそうとしている。</p>
展開 ②	<p>課題の設定</p> <p>課題を設定する。(第1段階)</p> <p>SQ3の解をもとに、解決したい課題を設定する。</p> <p>自分が設定した課題の価値を省察する。</p> <p>SQ4 設定した課題は、どんな価値があるか(そもそも価値があるか)</p> <p>SQ5 その課題が解決されることで、幸福を享受するのは誰なのか</p> <p>SQ6 課題が解決されていくことにわくわくする(期待できる)ものか</p> <p>SQ7 そこに当事者として、自分はあるか(参画できるものか)</p> <p>SQ8 持続可能性や実現可能性は考えられているか</p> <p>SQ9 地理的な見方・考え方を踏まえたものとなっているか</p> <p>課題を設定する。(第2段階)</p> <p>SQ4～9 の解をもとに、第1段階で設定した課題を修正する。 修正した課題、調査の趣旨、価値を「調査構想シート」に記入する。</p> <p>自分が設定した課題とその価値について他者と議論する。</p> <p>○設定した課題や価値等が書かれた「調査構想シート」をグループ内で発表し、意見交換を行う。意見交換を基に必要に応じて修正する。</p>	<p>個人</p>	<p>個人</p>	<p>○調査趣旨の明確化をはかる。</p> <p>○「調査構想シート(仮称)」は、Figma 内の各ワークスペースを基本とする。</p>
終末	<p>本時の問い合わせ</p> <p>(問い合わせ)私たちの地域はどのように変化し、どのような課題がみられるのだろうか</p> <p>○「調査構想シート」に書かれた課題を確認し、本時の問い合わせが見出せたことを理解する。</p> <p>SQ10 どうすればその課題は解決するのだろうか</p>			<p>○次回の活動「仮説」に向かう問い合わせを投げかける</p> <p>【知:評定】探究の手法について理解し、適切な問い合わせが立てられている。</p>

地理歴史科授業案

(地理総合)

●日 時:2023年12月13日(水)②
 ●生 徒:1年1組(40名)
 ●教 室:1年1組教室
 ●授業者:○○ ○○

- 1 単元名 「理想の生活圏を考えよう」
- 2 単元の目標
- 3 単元の指導と評価の計画(全15時間予定) → 本時:第1次1時間目 ※「主題設定」のスタート

(1) 本時の目標

- 【知識・技能】
探究の手法について理解し、適切な問い合わせ(課題)を立てる(設定する)ことができる。
- 【思考・判断・表現】
地域社会の持続性に着目し、深刻性や重要性といった根拠を基にした問い合わせとなるよう多面的、多角的に思考し、表現することができる。

(2) 授業展開計画

既習内容を確認した上で、問い合わせを生み出すこと(疑問に思うこと)を練習し、慣れることで、次時における「主題設定」のレディネスを高める。さらに、次時に向けて、「生活圏のちょっと気になること」に目を向けさせたい。

	学習活動	形態	備考
導入 (10分)	<p>◆地理総合全体の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各单元での既習内容を把握 (1) 情報を収集し、整理する方法は多種多様であり、情報の種類や表現方法によって、適性があること (2) 自然環境と人間の生活文化は相互に関係し合い、影響し合って成り立っていること (3) 世界の人々の生活文化は多様性をもち、その多様性は尊重すべきであること (4) グローバルな課題に対して国境を越えた解決が求められていること 	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ●全体を可視化できるように工夫して準備
展開① (15分)	<p>◆問い合わせを生み出す(疑問に思う)ことの反復練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「5W1H」の考え方を基本とする ・主題設定の基本として挙げられる手法を用いる 【資料比較・ランキング・憧れ(理想)と現状の比較…等】 ※ブレインストーミング的に思うままに疑問を出す ※「Figma/Figjam」を用いて、考えを共有する 	グループ (一斉)	<p>「疑問の1000本ノック」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●可能な限りわかりやすい資料を準備
展開② (15分)	<p>◆「生活圏のちょっと気になるところ」について意見交換</p> <p>「あなたの生活圏には、どのような地理的事象がみられるのか」</p> <p>「生活圏のちょっと気になるところ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人思考→グループ (生活圏が近いグループ or 生活圏が異なるグループ) ※肌感覚でOK ※質よりも量を重視 ※「Figma/Figjam」を用いて、考えを共有する 	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ●うまく思考できない生徒には、日常生活、通学途上、新聞・インターネット記事から生活圏の地理的事象を見出すよう言葉かけを行う
まとめ (10分)	<p>◆単元全体に関わる問い合わせを把握</p> <p>【単元全体に関わる問い合わせ】</p> <p>持続可能な地域の姿とはどのようなものだろうか。また、その実現のために私たちはどのように関わることができるのだろうか。</p> <p>◆単元に関する興味関心レベルを見取るアンケートに回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直感的な興味関心レベルや探究の手法の理解度を記録 ・単元全体に関わる問い合わせに対する現時点での考えを記録 (「持続可能な地域とは?」←「このために何してる?」)など 	一斉 個人	<ul style="list-style-type: none"> ●アンケートは授業改善を目的とするため、評価対象外であることを説明

「地理」から考えるプチ探究

地理総合

- (1) 5人1グループとなり、1人1テーマを持って探究を進めてください。 ※ 5人でA～Eの枠組み全てを網羅できるように担当分けをしてください。
(2) 最終的には、グループ内で情報共有し、知識の獲得を目指します。 ※ その際の発表方法等も評価の対象とします。
(3) Googleスライドを活用します。 ※ スライド1枚に、ポスターを作るイメージで資料を作成してください。

テーマ		教科書上の問い合わせ（参考）	
A	人口・食料問題	① 人口が増加した国々の課題 ② 人口が停滞する国々の課題 ③ 人口増加と食料問題	人口大国、中国とインドの将来は？ スウェーデンと日本、少子高齢化への対策は？ アフリカの食料問題を解決するには？
B	居住・都市問題	④ 大都市の地域性と課題 ⑤ 人口が密集する都市の課題	世界都市ロンドンとニューヨークの特徴と課題は？ メキシコシティとジャカルタの都市問題の解決は？
C	資源・エネルギー問題	⑥ エネルギー資源の生産・消費と課題 ⑦ 再生可能エネルギーへの移行 ⑧ 鉱産資源の産出と消費	有限資源の石油の利用は今後どうなるか？ これからのエネルギーのあり方は？ 資源をもつ国、もたない国の取り組みは？
D	地球環境問題	⑨ 地球温暖化の現状・将来とSDGs ⑩ 热帯林の減少とSDGs ⑪ 砂漠化の進行とSDGs	地球温暖化が与える影響は？ なぜ、熱帯林は減り続けているのか？ 乾燥地域で何がおこっているのか？
E	自然環境と防災	⑫ 日本における風水害と防災・減災の心構え ⑬ 日本における火山の噴火と防災・減災の心構え ⑭ 日本における地震・津波と防災・減災の心構え ⑮ 日本における都市型水害と防災・減災の心構え	風水害に備えるには？ 火山災害に備えるには？ 地震や津波の災害に備えるには？ 都市型災害に備えるには？

今回の活動のテーマは…

“Plus Ultra” ～教科書を超える～

